



早押しクイズの罪

やっと秋らしい風が吹いてきたと思えばまだまだ日差しが強い日もあって、気象予報士の「今年は夏の気圧配置が1か月余分に居座っている」という解説にうなずいてしまいます。

秋はまたテレビ番組の改編期で、クイズなどの特番がよく放送されます。その時に答えられるのはもちろんボタンを先に押した人。でもこれと同じように学習の場面で「はい、はい、はい！」とすぐに答えたがるのは考え方です。4択の場合は、目についたそれらしき答えだけに頼って他の選択肢の内容を吟味していないままです。早押しクイズを続けていると結局正解までの時間がより長くかかるここまでわかっていないようです。こんなのはタイパでもなんでもありません。また、文章題で他の人がじっくりと計算式を考えている時に、計算途中のものを「ここまではこれで合ってる？」とすぐに確認したがるのも感心しません。不安だからということのようですが、すぐに結論にたどり着けなくても踏みとどまれる“耐性”も少しずつ身に付けてほしいものです。先日、都内の中学校と小学校の両方で教えてきて、今は自宅で塾を開いている先生といろいろ話す機会がありました。どうもこの傾向はここの塾生だけでなく、他の塾でも学校でも“あるある”的なようです。

それに対して「筋道立てて考えなさい」というありきたりのアドバイスをしがちですが、そもそも筋道を立てるという方法がわからないからそうなるわけです。それには練習が必要です。国語、理科、社会なら、使うべき単語が2つか3つ示されていてそれをヒントに答えの文を作る記述問題に普段から取り組みましょう。英語なら単語を並べ替えて正しい文を作る問題。数学はどんな問題であっても途中式を書くことの徹底。それも1行だけでなく必要なら2行でも3行でも書いておいて、不正解の時にどこで間違えたかを自分で遡っていくことができるようになります。

早押しクイズ方式に頼っていいのは、テストの残り時間が1分しかなくて、まだ答えを書いていない問題が残っている時だけです！